

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「物質」「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/25, 26	1	物質の性質と分離・物質の成分	28～43
2	5/2, 3	2	物質の構成粒子（原子）	44～47
3	5/9, 10	2	電子配置と周期表	48～55
4	5/16, 17	3	イオン結合・金属結合	56～65
5	5/30, 31	3	分子と共有結合	66～85
6	6/27, 28	4	物質量（原子量・分子量）	88～93
7	7/4, 5	4	物質量と化学変化の量的関係	94～109
8	7/11, 12	5	酸と塩基 pH	110～120
9	7/18, 19	5	中和反応	121～138
10	7/25, 26	6	酸化還元反応	139～153

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期	レポート 4, 5, 6
----	--------------	---	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

物質「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。生物の特徴、

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/3, 4	1	物質の性質と分離・物質の成分	28～43
2	10/10, 11	2	物質の構成粒子（原子）	44～47
3	10/17, 18	2	電子配置と周期表	48～55
4	10/24, 25	3	イオン結合・金属結合	56～65
5	11/7, 8	3	分子と共有結合	66～85
6	12/5, 6	4	物質質量（原子量・分子量）	88～93
7	12/12, 13	4	物質質量と化学変化の量的関係	94～109
8	12/19, 20	5	酸と塩基 pH	110～120
9	1/9, 10	5	中和反応	121～138
10	1/16, 17	6	酸化還元反応	139～153

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/3, 4	1	生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー	9～36
2	10/10, 11	1, 2	生命活動とエネルギー（生物と遺伝子）	20～53
3	10/17, 18	2	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報の分配）	54～61
4	10/24, 25	3	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報とタンパク質合成）	62～76
5	11/7, 8	3	遺伝子とそのはたらき（遺伝子の発現と生命現象、ホルモン）	62～76 100～105
6	12/5, 6	4	生物の体内環境の維持（体内環境の維持）	77～97
7	12/12, 13	4	生物の体内環境の維持（体内環境を保つしくみ）	98～109
8	12/19, 20	5	生物の体内環境の維持（体内環境を守るしくみ）	110～119
9	1/9, 10	5	生物の体内環境の維持（免疫とヒト）	120～136
10	1/16, 17	6	生物の多様性と生態系（植生、バイオーム、生態系保全）	137～186

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テストの成績等により総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/25, 26	1	生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー	9～36
2	5/2, 3	1, 2	生命活動とエネルギー（生物と遺伝子）	20～53
3	5/9, 10	2	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報の分配）	54～61
4	5/16, 17	3	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報とタンパク質合成）	62～76
5	5/30, 31	3	遺伝子とそのはたらき（遺伝子の発現と生命現象、ホルモン）	62～76 100～105
6	6/27, 28	4	生物の体内環境の維持（体内環境の維持）	77～97
7	7/4, 5	4	生物の体内環境の維持（体内環境を保つしくみ）	98～109
8	7/11, 12	5	生物の体内環境の維持（体内環境を守るしくみ）	110～119
9	7/18, 19	5	生物の体内環境の維持（免疫とヒト）	120～136
10	7/25, 26	6	生物の多様性と生態系（植生、バイオーム、生態系保全）	137～186

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テストの成績等により総合的に評価する。

科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物	通年3単位	9枚	14時間	12時間

◇科目の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

生命現象と物質、遺伝、生殖と発生、環境応答、生態、進化と系統について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇使用教科書

スタンダード生物 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/25, 26	1	細胞	1～15
2	5/2, 3	1	タンパク質の構造と働き	16～21
3	5/16, 17	2	酵素としてはたらくタンパク質	22～31
4	5/30, 31	2	免疫にかかわるタンパク質	32～47
5	6/27, 28	3	代謝とエネルギー、呼吸、光合成	48～69
6	7/4, 5	4	DNA、遺伝情報の発現	70～77
7	7/11, 12	4	セントラルドグマ、	78～98
8	7/18, 19	5	バイオテクノロジー、ゲム解析、バイオテクノロジーの応用	99～113
9	7/25, 26	6	メンデルの法則、血液型	114～130
10	10/3, 4	6	発生、予定運命	131～141
11	11/7, 8	7	形成体（オーガナイザー）、誘導の連鎖	142～147
12	12/5, 6	8	クローン技術、ニューロン	148～169
13	12/19, 20	8	興奮の伝導、興奮の伝達	170～181
14	1/9, 10	9	脳と脊髄、行動	182～228

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3, 4, 5	後期	レポート 6, 7, 8, 9
----	--------------------	----	-----------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テストの成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

地学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/3.4	1	宇宙の進化	4～35
2	10/10.11	2	地球の変遷と宇宙の進化	44～85
3	10/17.18	2	地球の変遷と生物の進化	44～85
4	10/24.25	3	私たちの大地（大地とその動き）	86～109
5	11/7.8	3	私たちの大地（地震）	86～109
6	12/5.6	4	私たちの大地（火山）	110～127
7	12/12.13	4/5	私たちの空と海・地球のこれから（大気と海洋）	128～145
8	12/19.20	5	私たちの空と海・地球のこれから（大気と海洋）	128～145
9	1/9.10	6	私たちの空と海・地球のこれから（自然の恵み）	146～
10	1/16.17	6	私たちの空と海・地球のこれから（自然の恵み）	146～

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3	後期	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山、気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

地学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/25.26	1	宇宙の進化	4～35
2	5/2.3	2	地球の変遷と宇宙の進化	44～85
3	5/9.10	2	地球の変遷と生物の進化	44～85
4	5/16.17	3	私たちの大地（大地とその動き）	86～109
5	5/30.31	3	私たちの大地（地震）	86～109
6	6/27.28	4	私たちの大地（火山）	110～127
7	7/4.5	4/5	私たちの空と海・地球のこれから（大気と海洋）	128～145
8	7/11.12	5	私たちの空と海・地球のこれから（大気と海洋）	128～145
9	7/18.19	6	私たちの空と海・地球のこれから（自然の恵み）	146～
10	7/25.26	6	私たちの空と海・地球のこれから（自然の恵み）	146～

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3	後期	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	物理基礎	通年3単位	9枚	14時間	12時間

◇科目の目標

物理や物理現象に対する探究心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

物体の運動とエネルギー、さまざま物理現象とエネルギーについて学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇使用教科書

物理基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回	月日	レポート	スクーリング内容	教科書
1	4/25.26	1	1編 1章 直線運動の世界(速さ)	p 10~25
2	5/2.3	1	1章 直線運動の世界(加速度)	p 10~25
3	5/16.17	2	1章 直線運動の世界(自由落下)	p 26~33
4	5/30.31	2	1章 直線運動の世界(鉛直投射)	p 26~33
5	6/27.28	3	2章 力と運動の法則(力とは)	p 34~65
6	7/4.5	3/4	3章 仕事とエネルギー(仕事)	p 66~91
7	7/11.12	4	3章 仕事とエネルギー(重力)	p 66~91
8	7/18.19	5	2編 1章 熱	p 96~107
9	10/3.4	6	2章 波	p 110~131
10	10/10.11	7	3章 電気(電気抵抗)	p 134~141
11	11/7.8	7/8	3章 電気(直列並列)	p 142~153
12	12/5.6	8	3章 電気(磁界)	p 142~153
13	12/12.13	9	4章 エネルギー(利用)	p 154~171
14	1/9.10	9	4章 エネルギー(放射線)	p 154~171

◇テスト範囲

前期	レポート 1. 2. 3. 4. 5	後期	レポート 6. 7. 8. 9
----	--------------------	----	-----------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇使用教科書

科学と人間生活 啓林館

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/25, 26	1	生命の科学 生物と光	p 13~37
2	5/2, 3	1	生命の科学 生物と光	p 13~37
3	5/9, 10	2	生命の科学 微生物とその利用	p 38~60
4	5/16, 17	2. 3	生命の科学 物質の科学 食品と衣料	p 61~84
5	5/30, 31	3	物質の科学 材料とその再利用	p86~108
6	6/27, 28	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p109~134
7	7/4, 5	4. 5	光や熱の科学 宇宙や地球の科学	p 134~160
8	7/11, 12	5	宇宙や地球の科学 身近な天体と太陽系	p 151~171
9	7/18, 19	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 172~182
10	7/25, 26	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 182~192

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境についてまなぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇使用教科書

科学と人間生活 啓林館

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/3, 4	1	生命の科学 生物と光	p 13~37
2	10/10, 11	1	生命の科学 生物と光	p 13~37
3	10/17, 18	2	生命の科学 微生物とその利用	p 38~60
4	10/24, 25	2. 3	生命の科学 物質の科学	p 61~84
5	11/7, 8	3	物質の科学 材料とその再利用	p 86~108
6	12/5, 6	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p 109~134
7	12/12, 13	4. 5	光や熱の科学 宇宙や地球の科学	p 134~160
8	12/19, 20	5	宇宙や地球の科学 身近な天体と太陽系	p 151~171
9	1/9, 10	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 172~182
10	1/16, 17	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 182~192

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

レポートの内容・提出状況、スクーリングの出席状況、テスト成績によって総合的に評価する。